



内定者の声

令和2年度入省予定 一般職自然系



はじめに

環境省自然系職員（レンジャー）を目指す皆様、こんにちは！

はじめに、本冊子をお手に取っていただきありがとうございます。

この冊子は、2019年度環境省一般職自然系内定者がまとめた「内定者の声」です。

現在、多くの人々にとって休日の保養地としても定着しつつある自然環境を取り巻く状況は、刻々と変化を続けています。そんな中で国立公園の管理、野生動植物の保護・保全、自然再生事業などに携わり、地域住民の方々と協力し合い活動しているのがレンジャーです。

この冊子では、レンジャーとして内定をいただくに至った私たちの、自然に対する熱い想いや内定までの過程、勉強方法についてまとめました。レンジャーを目指している方や少しでも関心のある方にとって参考になる1冊ではないでしょうか。

私たちは、一人ひとりが異なる境遇の中で自然環境に対するそれぞれの考えを持って過ごしてきました。そんな十人十色の私たちに共通することはきっと、レンジャーとして働きたい！という想いです。この想いがそれぞれの内定へと導いてくれたのではないかと思います。

この冊子を通じて少しでもレンジャーを目指す皆様の力になることができれば幸いです。

目次

はじめに・目次	p.1
国家一般職試験の流れ	p.2
官庁訪問とは	p.3
内定者概要	p.4
内定への道（内定者ボイス・アドバイス 編）	p.5
おわりに	p.25

国家一般職試験の流れ



下記の日程は **2019 年度のもの**

最新の情報は人事院の[国家公務員試験採用情報 NAVI]及び[環境省 HP]を参照して下さい。

日時	人事院	環境省	ひと言メッセージ
2019年 2月1日～	受験案内 HP に掲載		試験日程など内容をよく確認すること！
4月5日～ 4月17日	インターネットによる 受験申込受付期間		事前登録が必要。期日までに余裕を持って出願しましょう。
6月16日	第1次試験（筆記）		私服でOK。
7月10日	第1次試験合格者発表	官庁訪問予約受付開始	Ⓐ人事院 HP で確認。後日、はがき(第1次試験合格通知書)が送付。 Ⓑ環境省 HP を確認。希望日と時間帯を記入しメールにて予約。試験日程や他省庁の官庁訪問日など、スケジュールをよく考えて申し込もう。
7月11日		官庁訪問 第1日目	服装はクールビズでOK。
7月12日～ 7月19日	官庁合同業務説明会 ※開催地により異なる ※東京は2回目開催(8/4)		人事院 HP を確認。環境省以外の説明も聞いておいて損はない。志望動機を整理しやすくなる。
7月12日		官庁訪問 第2日目	
7月16日		官庁訪問 第3日目	
7月17日～ 8月2日	第2次試験（人物）		人事院の面接試験。 (第1次試験合格書で指定の日時、場所で開催)
8月5日		官庁訪問 第4日目	官庁訪問最終日
8月20日	最終合格者発表	採用内々定 → 最終面接の案内	Ⓐ人事院 HP で確認。後日、はがき(合格通知書)が送付される。 Ⓑ電話で採用内々定のお知らせが来る。 最終面接の案内はメールで送付される。
10月1日		最終面接 → 内定通知書授与	最後の面接。余程のことがなければ合格ができるみたい…油断せず臨みましょう。

官庁訪問とは

玉 国家公務員として採用されるには2種類の試験を突破する必要があります。1つは人事院が実施する試験で、いわゆる第1次試験、第2次試験のことです。試験内容は基礎能力試験・専門試験・人物試験等があり、試験に最終合格すると採用候補者名簿に記載されます。ですが、この時点では「採用候補者」であり道半ばです。採用に向けて突破すべきもう1つのステップが官庁訪問と呼ばれる、各府省庁等が個別に実施する面接・試験等です。ここでは、環境省が行う官庁訪問について説明します。(最新の情報は人事院や環境省のHPでご確認ください)

官庁訪問の予約について（令和元年度の場合）

2019年度の環境省一般職自然系の官庁訪問は電子メールによる事前予約制。平成30年度と異なり、7月上旬にHP上で予約方法が公開され、人事院の第1次試験の合格発表と同時に官庁訪問の予約が解禁。年度により実施時期や予約方法が異なる場合があるため、最新の情報を必ず確認すること！

◆環境省_採用・キャリア形成支援情報 一般職自然系（大卒程度）HP

http://www.env.go.jp/guide/saiyo/cat_ra3/homon.html

官庁訪問の際の持参書類

当日は、「訪問者カード（環境省のHPから様式をダウンロードし、記入したもの。写真(3×4cm)を要貼付）」を持参する必要があります。※入館の際は「写真付きの身分証明書(学生証など)」も必要になります。

過去問の取り寄せについて

下記HPより申請することができます。

◆情報公開制度利用のご案内 → 「人事院開示請求電子申請システムの窓口」へ進む

<https://www.iinj.go.jp/iyohokoukai/annai.html>

請求する行政文書の名称等：「国家公務員採用試験の過去の問題」にて必要な問題を申請。
例) 試験名:[一般職(大卒程度)] 試験の区分,請求年度等:[林学 試験問題集 平成〇～△年度]

※当年度の過去問は試験実施日の翌日から開示請求できます。

※過去問は5年よりも過去のものには開示対象とならないので注意が必要です。

開示方法は「人事院地方事務所等での開示(閲覧、写し)」or「送付(写し、CDデータ(PDF形式))」から選択できます。(オススメはCDデータ！)

過去問の取り寄せには時間がかかるので注意して下さい。

申請書送付 →(約1ヶ月後)開示決定通知、同封の申出書を送付 →(1～2週間後)過去問到着

(リンク先)

○国家公務員採用試験インターネット申込み <http://www.jinji-shiken.go.jp/juken.html>

○人事院_国家公務員試験採用情報 NAVI <https://www.jinji.go.jp/saiyo/saiyo.html>

内定者概要

	A	B	C
最終学歴	大学卒業見込み	大学卒	大学卒業見込み
学年	学部4年	既卒	学部4年
性別	男性	女性	男性
年齢	22歳	27歳	22歳
併願先	国家総合職 地方上級 民間企業	地方上級	地方上級
インターンシップ	なし	なし	なし
試験区分	林学	林学	林学
専攻科目	森林生態学	自然地理学	環境社会学
趣味	スポーツ・温泉巡り・溪流釣り	ドライブ・景勝地探索	ツーリング・登山
学生時代打ち込んだこと	アメフト・アルバイト・学業	動植物の同定・旅行	バイクで様々な土地を訪れること

	D	E	F
最終学歴	大学卒	大学卒	大学院卒
学年	既卒	既卒	修士2年
性別	男性	女性	男性
年齢	26歳	28歳	25歳
併願先	国家総合職	なし	国家総合職 地方上級職 民間企業
インターンシップ	なし	なし	環境省近畿地方環境事務所
試験区分	林学	林学	林学
専攻科目	生態学	図書館情報学	景観生態学
趣味	野球・自然散策・写真撮影	旅行	旅行・サッカー・昆虫採集
学生時代打ち込んだこと	学業・部活	登山・ボランティア活動・旅行	学生団体活動

	G	H	I
最終学歴	大学卒	大学卒業見込み	大学卒
学年	既卒	学部4年	既卒
性別	男性	男性	男性
年齢	23歳	22歳	23歳
併願先	国家総合職 地方上級職	なし	なし
インターンシップ	環境省中部地方環境事務所	土佐清水自然保護官事務所	なし
試験区分	林学	林学	林学
専攻科目	昆虫生態学	林学、生態学	植生地理学
趣味	競走馬の写真撮影・三線	旅行・サッカー・ヒッチハイク	特になし
学生時代打ち込んだこと	旅行・イグアナの飼育	人との交流を通して自分自身を磨くこと	勉強

	J
最終学歴	大学卒業見込み
学年	学部4年
性別	女性
年齢	22歳
併願先	国家総合職 民間企業
インターンシップ	なし
試験区分	林学
専攻科目	環境科学
趣味	オリエンテーリング・旅行
学生時代打ち込んだこと	部活動(オリエンテーリング)・国際交流

内定者概要まとめ

- ・学部卒 4名、院卒 1名、既卒 5名
- ・男性 7名、女性 3名
- ・併願は多くの方がしている

- ・専攻科目と試験区分は直結しているわけではない
- ・アウトドア系（特に旅行）の趣味をもつ人が多い
- ・みんな自然が大好き！

内定者ボイス・アドバイス 編

内定者 A の場合

プロフィール

【最終学歴】大学卒業見込み 【学年・性別・年齢】学部 4 年・男性・22 歳
 【参加した説明会・回数】大学で開かれる国家公務員説明会など
 【併願先】国家公務員総合職、県庁、民間
 【試験区分】林学 【専攻科目】森林生態学

志望動機

幼い頃から父の趣味の影響で山や川に行く機会が多く、野生生物と触れあい大自然の中で遊ぶ事が大好きでした。そのため、もっと自然について知りたいと思い、農業高校に進学し高校から野生動植物の生態やそれらを取り巻く環境管理について学び、大学でも森林生態学を専攻し学びました。私がこんなにも自然に興味を持つことができたのは日本が有する美しく豊かな自然のおかげであると感じたため、今度は私が環境省のレンジャーとなり野生生物の保護管理やエコツアー等の環境教育を推進し、国民の方々や外国人観光客の方々にも自然の大切さや面白さを知ってもらえるような仕事をしたいと思い、レンジャーを志望しました。

勉強方法

基礎能力試験

基礎能力の勉強は大学が開いていた公務員講座に通い、10月頃から始めました。最初は講座で貰った教科書を使い勉強を進めていましたが効率が悪いと感じ、模試をとにかく受け、その模試で間違えた箇所を直すという作業を繰り返して勉強していました。また、前半は苦手な数的推理ばかり勉強していましたが中々良い結果が出ず、これはいくらやっても伸びないと思ったので、後半は他の得意な暗記系科目を中心に勉強していました。

専門試験

専門科目の勉強は2月頃から始めました。林学は市販の問題集が無いので、自分で過去問を新しい年から5年分取り寄せて勉強に活用していました。勉強方法としては、販売されている『林業実務必携』や『平成〇〇年版森林・林業白書』などを用いて過去問をひたすら解く方法で勉強していました。過去問の正解の選択肢のみ覚えるのではなく、間違った選択肢のどこが間違っているのかを資料などを用いて調べ添削する勉強法は、より理解が深まったので良いと思いました。

専門記述試験

記述試験対策は専門科目の勉強と今までの大学の講義によって得た知識があれば十分と感じていたため、記述試験自体の対策はしませんでした。

二次面接&官庁訪問

面接試験対策も今まで自分が頑張ったことや経験したことをありのまま話せば良いと思い実践的な練習はしませんでした。しかし、念のため面接ノートを作り、よく聞かれる質問やそれに対する自分の答えのキーワードのみを書き込んでいました。言うことをそのまま文章で書き込むのではなくキーワードのみ書いたことで本番でも普段の会話のように受け答えができたので良かったです。

内定までの過ごし方、心がけたこと

内定までは公務員の勉強や卒論研究など頭を使うことがたくさんあったので、休日には友人とスポーツをしたりジムで自主的に筋力トレーニングをしたりして、積極的に体を動かし気分をリフレッシュさせていました。また、そういったイベントの計画を一週間に一つでも立てておくとそのイベントのために勉強を頑張ることができるので、やる気が出ない時や勉強ばかりで嫌になりそうな時は、試してみてください。

| アドバイス

就職活動中は公務員を含め、多くの職種を知ることができる一番の機会だと思うので志望先を一つに絞らず幅広い視野で就職活動をすると思います！僕も就職活動中には最初からレンジャーのみに志望先を絞るのではなく、様々な民間企業や県庁などを調べ悩んだうえで、自分が幼い頃からやりたかったことを優先しレンジャーの道を選びました。また、僕もそうでしたが就職活動中は色々な事が原因で悩むことがあるかもしれません。自分の将来に関わることなので悩むのは当然なのですが、いくら悩んでも解決しない悩みはたくさんあります。そんな時は思い切って試験や就職活動を忘れて自分の好きなことをする日を作ると気持ちが晴れ、悩みを忘れることができるのでオススメです！長々と話してしまい申し訳ございませんが最後にひとこと！自分がこれまで経験してきたことに自信を持って頑張ってください！応援しています！

内定者 B の場合

プロフィール

【最終学歴】大学卒（H27年卒）

【学年・性別・年齢】既卒・女性・27歳

【参加した説明会・回数】なし

【併願先】地方上級公務員試験

【試験区分】林学

【専攻科目】自然地理学

志望動機

幼い時から自然がある景色が好きなお子供で、自身の将来について考えるころには自然に関わる職に就きたいと思うようになりました。レンジャーへのあこがれは大学在学中に漠然と生まれましたが、社会人経験を通して地方公務員を第一志望に考えていたこともあり、レンジャーを第一志望として考える転機になったのが、小笠原諸島を訪れたことです。多くの外来種によって目の前にいる希少な固有種たちが絶滅の危機にあって非常に危機感を覚えました。この体験を通して外来種対策の必要性を肌で感じ、レンジャーになりたいという思いが強くなりました。

勉強方法

勉強方法

筆記試験対策は授業の空き時間や学校、バイトの帰宅後に勉強しました。日によってスケジュールがまちまちだったため、1日ごとではなく1週間でどれだけ進めるか目標を立てて勉強していました。はじめの数か月は計画通り進んでいましたが、バイトの掛け持ちを始めたころから崩れ始め、筆記試験本番直前はかなり追い込みをかける結果となりました。

基礎能力試験

まずは参考書を解き、本番直前は過去問500を2回解きました。参考書を解く段階では分野による捨て問を設けず、問題を見て解けないと判断したものを捨て問にしようと考えていました。しかし、基礎能力試験では捨て問は必須になるため、苦手な分野や習っていない分野は参考書を解く時点で手を付けず、他の分野に時間を割くべきだったと後悔しています。

専門試験

ひたすら過去問を解いていました。過去問には解答解説がないため、自分で正しい情報を調べる必要があります。勉強方法は過去の「内定者の声」などを参考にした結果、問題をA4用紙1枚に1問貼り付け、選択肢1つ1つの間違っている箇所と正しい情報、関連する情報を書き込むという方法でした。最初の1~2年分は解答解説を作るのにすごく時間がかかりましたが、その分情報がある程度頭に入るため、似た問題は解く回数を重ねる毎に正答率が上がり、解説づくりにかかる時間も短くなっていきました。参考書籍は林業実務必携と森林・林業白書が中心で、統計データは林野庁HPなどから集めました。初めて過去問を解いたのが4月で、手ごたえが掴めないまま本番に挑んだため、あまり勉強に時間が割けない方はできるだけ早めに取り組むことをお勧めします。

記述対策はあまりしていません。専門試験対策をしておけば林業の歴史や現状の課題を把握できます。テーマはそのような観点から出題されているように感じたので、専門試験の勉強が自然と筆記対策になると思います。文章作りは慣れたと思うので、これまで文章を書いてこなかった場合は何度か練習した方がいいかもしれません。

二次面接&官庁訪問専門記述試験

二次面接対策、官庁訪問対策ともに、まずはこれまでの経験を書き出しました。ここで書き出した内容は、面接カードに記入しないものでも面接官とのやり取りの中で話題にできました。この中から面接カードに記入する内容を決め、そこから質問を予想する形式で対策しました。また、最も心がけたことは、本心そのまま答えるということです。私は墓穴

を掘るタイプなので、正直に答えて結果が悪ければ仕方がないと考えていました。官庁訪問ではもう一つ、面接官との会話を楽しむことを心がけていました。私が内定をいただけるのは夢にも思っていなかったため、環境省へは後悔しないための記念受験のような感覚で訪問しました（とは言っても対策はしっかりしました）。そのため、質問に対してただ答えるのではなく、会話をしよう！という気持ちで挑みました。

アドバイス

何事に対しても言えることですが、最初から諦めずに取り組むことが大事だと思います。私自身、内定をいただくのは厳しいと考えていましたが、最善を尽くさなければ必ず後悔する日が来ると思い日々過ごしていました。同時に、今の自分に足りていないもの、それを補うために必要な行動は何かを考え、実行するよう心がけていました。こうしてとった行動とそこでの経験は必ず自分の中に残り、自信へとつながるはずです。培われた自信はどこかで必ず活かされ、私の場合、今までの選択に無駄なことはなかった！と思うことができました。つたない言葉ではありますが、少しでもこれを読んでいただいた方のお力になれることを願っています。

内定者 C の場合

プロフィール

【最終学歴】 大学卒業見込み 【学年・性別・年齢】 学部 4 年・男性・22 歳
【参加した説明会・回数】 1 回 官庁訪問前
【併願先】 地方上級公務員試験
【試験区分】 林学 【専攻科目】 環境社会学

志望動機

祖 父がコメ農家を営んでいたことなどから、自然の中で遊ぶことがとても好きでした。また、大学に入りバイクで様々な場所に訪れたり、登山などを通して日本の豊かな自然を体験し、自然に関わる仕事に就きたいと考えていました。その中で、ゼミでのフィールドワークを通して様々な地域で、それぞれの特徴を持った自然と関わりながら生活する方の話を聞くことができ、日本の自然に長期的に関わっていきたいと思い、環境省を志望しました。

勉強方法

勉強方法

10 月ごろから本格的に試験勉強に取り組みました。専門試験の配点が高くなっているため、専門試験の対策をメインに考えながら取り組みました。また筆記試験の勉強においては、本番でどのくらい点数が取れるのかや、現状の自分の力などを定期的に知ることが重要だと感じました。その上で、試験日からさかのぼって日程を組んでいくことができたのが、良かったと思っています。

基礎能力試験

教養試験では 5～6 割を安定的に取ることを意識して取り組み、問題数の多い科目にしぼって重点的に取り組みました。教養試験に関しては、試験のスピードに慣れることや問題を解く順番なども意識しながら、毎日継続することを心がけました。

専門試験

はじめの 2 ヶ月間ほどはホームページの情報を頼りに、過去問をノートにまとめるなどして勉強していました。しかし過去問を解いてみて、自分にはあっていなかったと感じ、勉強方法を変えたり、場所を変えてみたりして工夫しました。また試験は 6 月の中旬ですが、遅くとも最後の 1 ヶ月は復習や自分の苦手な部分に充てる時間を確保した方がいいと感じました。

専門記述試験

専門試験の勉強で白書の内容を覚えるので、過去問を解いてみて、時間配分や文章の構成に気をつけて対策しました。

二次面接&官庁訪問

今年は二次面接の前に官庁訪問が実施され、私自身戸惑った状態で官庁訪問に臨みました。実際に周りの方も戸惑っている方が多かったように感じました。面接の対策としては大学のキャリアセンターを利用させていただきました。人に話しているうちに、志望理由などの欠けている点や、伝えきれていない点も見えてくるのでとても有効だったと思います。二次面接については、官庁訪問が先に行われましたので内容が頭に残ってる状態でした。そのため簡単な確認程度で済みました。

アドバイス

私

は自然と関わる仕事を調べていくうちにレンジャーという仕事を知り、この仕事をやってみたいと思いましたが、調べていくうちにアクティブレンジャーの存在や、多様な主体の存在を知りました。その中で、今年レンジャーになれなかったとしても大学院や、専門学校などで経験を積んでいくことも視野に入れることができ、自分のやりたいことなども知ることができたと思っています。

就職活動においては、私自身迷うこともありましたが、レンジャーへの道のりや興味のある仕事は一つではないと思うので、自分の納得のいく進路が取れていればいいのではないかと思います。採用までには様々な試験がありますが、適度に休憩しながら頑張ってください！

内定者 D の場合

プロフィール

【最終学歴】大学卒（H27年卒） 【学年・性別・年齢】既卒・男性・27歳
【参加した説明会・回数】一般職各府省合同業務説明会
【併願先】国家公務員総合職
【試験区分】林学 【専攻科目】植物生態学

志望動機

兼ねてより、自然環境を保全する仕事に携わりたいと思っていました。昔から自然（と言っても草原や用水路など身近な自然です）と触れ合う機会が多く、生き物が大好きでした。しかし、その遊び場は数年して開発で無くなってしまい、子供ながらにショックを受けたことを覚えています。振り返るとそのことが影響していたのだと思いますが、大学では生態学を中心に自然環境について学びました。そこで自然環境の大切さを再認識したわけですが、開発については、人の暮らしのために必要だと思う部分もありまして、自然環境を守りたい、でも人の暮らしも大切だ、では何が正解なのだろう？と思うようになりました。その点において、日本の国立公園は地域制ということで、貴重な自然環境を人の暮らしも含め、人とのつながりで保全していることを知り、その中心となって仕事ができるというところに強い魅力を感じたため、当省の志望に至りました。

勉強方法

勉強方法

基礎能力試験は、現代文、英文、判断推理、数的処理が出題数の60%を占めるので、それらに重点を置いて勉強しました。特に、判断推理、数的処理は頭を慣らす必要があったため、「畑中シリーズ」を使っていました。

専門試験は、出版されている教材もなかったため、「林業白書」と「過去問（3ヶ年分）」を参考に勉強しました。林学については前職の経験もあったことから、自身の感覚と林業白書の統計データ等の擦り合わせを行い、過去問で出題傾向の把握や復習を行っていました。「林業白書」は一度目を通すだけでも十分勉強になるので、読んでおいて損はないかと思えます。あと個人的には、自身の住む都道府県の「地域森林計画書」もおすすめで、小論文を書く時の参考になると思えます。

内定までの過ごし方、心がけたこと

今年は当省の官庁訪問後に人事院の最終合格者発表があったため、その発表までは心が落ち着かない日々でした（筆記試験の出来が悪く、面接試験の結果次第というところもあったので余計にかもしれません）。ただ、悩み過ぎても答えが出るわけでもないの、なるべく考えないように今やるべきことに専念して、内定までの日々を過ごしていました。

国家公務員試験

一次の筆記試験は、自分のペースを崩さないことが大事かと思えます。体調を整えて、時間に余裕を持って臨むことに尽きます。

二次の面接試験は、面接カードに沿って行われるので、それぞれの内容に対して、自分の考えをしっかり整理して臨めば大丈夫だと思います。

官庁訪問

候補日によっては待ち時間が長いこともあるため、あまり気張り過ぎず、適度にリラックスすることが大事かと思えます。周りの人と話をして問題ないので、面接前の肩慣らし程度に緊張をほぐしておくことをおすすめします。

アドバイス

あ

っかけや考え、勉強方法は人それぞれのもがあると思うので、私がとやかく言える立場ではないのですが、「考えること」は大事なことのだと最近よく思います。私は忙しい時など、その過程を疎かにしがちなのですが、少し立ち止まり振り返ってみる、自問自答してみる、そうすることで見えてくるものがあるかと思ひます。ささやかではあります、みなさんのご健闘をお祈りしてあります。

内定者 E の場合

プロフィール

【最終学歴】大学卒 【学年・性別・年齢】既卒・女性・28歳
【参加した説明会・回数】一次試験後の合同説明会（1回）、その他数回
【併願先】なし
【試験区分】林学 【専攻科目】図書館・情報学

志望動機

行 政という立場から、自然に関わる様々な活動をする人たちを支える仕事がしたいと思ったことが、レンジャーをめざした理由です。
大学時代は部活動で登山をしたり、子供のキャンプカウンセラーのボランティアをするなど自然の中での活動を多くしていましたが、学部は文系で、卒業後は一般企業で働いていました。働きながら、「自然に関わる仕事をしてみたい」と思うようになり、退職後は都立公園でアルバイトをしながら、林学を勉強しました。都立公園でのアルバイトといっても、巡回や来園者対応など、専門的な仕事ではありませんでしたが、地元のNPOをはじめとする様々な団体の活動によって、公園の自然は守られつつ魅力ある公園作りができることを実感しました。
これらの経験から、日本各地それぞれの地域の人たちと一緒に日本の自然公園のあり方を考えていきたいと思いレンジャーを志望しました。

勉強方法

勉強方法

1次試験の林学は専門外でしたので、一から独学しました。過去の先輩の内定者の声に書かれていたように、人事院から5年分の過去問を取り寄せ、林業白書を使用して勉強しました。基礎能力試験は市販の問題集と模試を活用しました。

二次面接&官庁訪問

2次試験の面接については、知り合いにレンジャー受験経験者もおらず情報もなかったもので、一般的な就職面接で聞かれそうなことを用意していきました。

私の専攻分野もそれまでの仕事もレンジャーとは関係のないものだったため、自分自身レンジャーとしてやっていけるのか不安や迷いがありました。なので官庁訪問では正直にそのことを面接の場で伝え、自分が納得できるまで話す機会をいただきました。面接は自分をつくろう場でなく、ありのままを伝え、自分の進路を考えるのがよいのではないのでしょうか。

アドバイス

年 齢や学問的なバックグラウンド等、何をとっても、なぜ内定をもらえたのか自分でも不思議なくらいです。私は、紆余曲折、いろいろな経験を経て、環境省レンジャーという仕事にたどり着きました。「レンジャーになりたい」という思いがあり、受験資格があるならば、誰もが挑戦できる、その門戸は開かれていると私は思います。こんな経歴のレンジャー内定者もいるんだという一例として、読んでいただければ幸いです。

内定者 F の場合

プロフィール

【最終学歴】大学院卒（R2年修了見込） 【学年・性別・年齢】M2・男性・25歳
【参加した説明会・回数】霞ヶ関OPENゼミ・公務研究セミナー等 回数不明
【併願先】国家公務員総合職・広域自治体・環境コンサル・経営コンサル
【試験区分】林学 【専攻科目】景観生態学

志望動機

環 境省を私が志したきっかけは、学部3年次で経験した近畿地方環境事務所でのインターンシップ研修でした。それまでは自然に関わる仕事につきたいという漠然とした思いを持っていただけでしたが、インターンシップを通して、日本の自然環境の「保全と利用の両立」に行政として寄与する、という働き方を明確にイメージでき、魅力を感じたことが環境省を志望するきっかけとなりました。また、職員の方々の人柄に惹かれたのも大きかったです。この経験は自身の進路選択を決定づけた最大の要因でした。

そのほか、吉野熊野国立公園大台ヶ原地区のパークボランティアや環境コンサルでのインターン経験、各地の公園訪問等のなかで、高い志と優れた技術・知識を持って活躍されている方々と多く出会いました。そのような方々を国の職員として広くサポートしたいと考えたことも、環境省自然系職員を志望するに至った大きな動機の一つでした。

勉強方法

勉強方法

総合職試験を併願していたため、一般職・総合職の対策をまとめて行っていました。試験対策を本格的に開始したのは受験年の1月です。結果的に両方の試験に合格できたため、これについて書かせて頂きます。対策の方法は受ける試験や受験者ごとに適したものが異なると思いますので、参考までにご覧下さい。

基礎能力試験

私の場合は数的処理に特に苦手意識を感じていたため、そこを重点的に対策しました。教材としては畑中敦子・津田秀樹両先生による「勝者の解き方 敗者の落とし穴」が苦手意識を有する方には最適かと思えます。幅広い問題パターンと共に極めて丁寧な解説が付されており、これを周回するだけで大きく地力が向上します。基礎的な問題形式と解法をこれで押さえておきましょう。ただ、この教材は対象とする試験が広範なため、ターゲットを国家公務員に絞った追加の教材として実務教育出版の「新スーパー過去問ゼミ」（以下 スー過去）の数的処理と、資格試験研究会の「国家総合職 教養試験」（以下 過去問集）を購入し、実戦を意識して時間を計測しながら解いていました。

その他の文章理解や判断推理は得手不得手に関わらず時間との戦いになると感じたため、問題形式と解法についてとにかく実戦形式で押さえていきました。スー過去と過去問集を時間と正答率を把握しながら解いていき、自分なりに学習方針を微調整していくと良いかと思えます。

時事問題は「速攻の時事」を購入し、読み物感覚で読んでおきましょう。知識分野は大学入試時に用いる知識をそのまま使いました。不安な分野は高校の教材等でおさらいしておきましょう。

総括すると、基本的には実戦形式を意識して自身の現状を頻繁に確認し、順応的に対策方針を変化させていく、というスタイルでした。

専門試験

造園施工管理技士2級の試験問題集を入手して解いていました。また、過去問と環境省HPの報道発表資料から出題傾向との連動性を大まかに掴むよう心がけていました。最新の生物多様性国家戦略と環境省・林野庁の白書は面接対策も兼ねて必ず読んでおくべきか

と思います。

また、法令や制度を体系的に把握しておくことも重要です。私の場合は過去に出題された各種の法令や制度について相互の関係性を視覚的に把握できるよう模造紙に樹形図の形式で書き出し、用語や類似点等を整理して対策していました。

そのほか、国立公園ごとの特徴についても押さえておく必要があると感じたため、公園を実際に訪問してみるほか、各公園のHPから景観・地形・生態系・文化等の特徴を収集するなどしていました。

専門試験対策を通して自身がどのようなことをして働くことになるのか、何をしたいのかのイメージを掴むこともできるかと思いますので抜かりなく対策して下さい。

私が受験した区分の専門試験の場合、国家公務員試験に向けた問題集が私の知る限り存在しなかったため、入手した過去問は慎重に使うって演習を行っていました。専門試験については、基礎能力試験と違って学習と分析に重点を置いて対策していたように感じます。

専門記述試験

特にこれと言った対策はしていません。専門試験と大学院試験に用いた知識と論法で対応しました。知識の涵養も兼ねて日頃から自然環境に関する新聞記事などを読み、自身の意見を論理立てて説明できるように意識しておくの良いのではと思います。

二次面接&官庁訪問

・官庁訪問

自身の思うことを率直に、端的に伝えることを意識して話すと良いかと思います。職員との面接は常に楽しく勉強になるものでした。深掘りされることもあります。基本的には面接カードに準拠した内容です。また、職員は受験者を理解しようと真剣に向き合ってくれます。厳しい指摘や質問に接しても、こちらも真摯に向き合うことが重要です。兎にも角にも、気負わず焦らず、落ち着いて臨んで下さい。

・二次面接

なぜ国家公務員を志望したのか、なぜその省庁なのかを意識して対策を練っておくと良いかと思います。もちろん、志望する省庁についての知識は官庁訪問と同じく欠かせません。何をしている省庁なのか、そこで自身は何をしたいのかを改めて考えておく必要があります。こちらも気負わず焦らず、落ち着いて臨みましょう。

内定までの過ごし方、心がけたこと

心の重荷が降りた感覚は少しありましたが、普段と変わらず過ごしていました。

アドバイス

勉

強方法の欄にも書きましたが、対策は試験と受験者の数だけ存在し、適したものがそれぞれに存在するかと思います。ゆえに、自身の強みと弱みは何か、どのような対策によって実力を養成すべきかを常に意識し、自身に適したスタイルを見つけて実践することが重要かと思います。

最後に、受験の過程で万が一心が折れても、必ず立ち直して下さい。その姿勢がレンジャーには必要なのだと、お世話になったレンジャーの方から聞き、印象に残っています。

皆様と一緒に働けることを楽しみにしております。読了頂きありがとうございました。

内定者 G の場合

プロフィール

【最終学歴】 大学卒 (H31 卒業) 【学年・性別・年齢】 既卒・男性・23 歳
【参加した説明会・回数】 一般職試験一次合格者対象業務説明会 (1 回)
【併願先】 国家総合職・地方上級職 (東京都・愛知県)
【試験区分】 林学 【専攻科目】 昆虫生態学

志望動機

私 が小学生のとき、「沖縄の環境で生活したい。」と突然母に言ったことがきっかけで母と二人で沖縄に移住することが決まりました。現地では、干潟や国立公園を訪れて、亜熱帯に生息する生物を多く観察してきました。同じ日本でも地元である愛知県との環境の違いにとっても感動しました。高校 1 年の時に、沖縄県南城市にある情報発信施設の館長さんと話す機会があり、そのときに「自然や生き物に関心を持つ人が少なくなり、トカゲハゼの生息地である佐敷干潟の環境悪化が進んでいる。」という深刻な話を伺いました。トカゲハゼは日本でも沖縄の一部にしか生息していないことを知っていたので、とても残念に思いました。そしてそのころから、人と生物が持続的に共生していくためには、まず人々に自然に対する正しい認識を伝えていく必要があるのではないかと考えるようになり、仕事としてその業務に取り組んでいる自然保護官にあこがれるようになりました。

大学 3 年の時には、中部地方環境事務所のインターンシップに参加し、アクティブレンジャーの方々と藤前干潟でカニの生態を観察するイベントを行いました。参加した子供たちの真剣な眼差しをみて、実際に現場で自然学習を行うことの大切さを肌で感じることができ、改めて人と生き物が共生する自然共生社会の実現にかかわっていきたいと思い、環境省を志望しました。

勉強方法

勉強方法

○計画

短期で追い込むのか、じっくりと時間を割いて挑むのか、人によって作戦は様々だと思います。私は数的推理と判断推理は夏ごろから始め、その他の科目は年明けから本格的に始めました。まず、ネットの情報を参考にしながら、各科目の優先順位とそれぞれに割く時間を決めました。そして 1 か月ごとの達成目標を定めてから 1 週間ごと、1 日ごとに取り組む量を決めました。時間ごとに予定を書けるタイプの手帳はスケジュール管理に便利です。また、疲れすぎないように、50 分勉強したら 10 分休憩するというリズムで取り組んでいました。休憩時間に本やレンジャー体験記を読んでいたときが一番集中力が持続していた気がします (笑)。

基礎能力試験

○使用した参考書

スーパー過去問ゼミ、過去問 500、ダイレクトナビ (生物・地理・日本史)、速読英単語、速攻の時事 (本編、トレーニング編)

○対策

数的推理と判断推理が一番はじめに取り掛かり、最も時間を割きました。スーパー過去の頻出度 A、B を中心に 3 周以上繰り返し解きました。英文と現代文は毎日解き、勘が鈍らないようにしました。スーパー過去だけでは問題量が足らなかったため、クイックマスターと速読英単語を併用しました。

知識分野は範囲が膨大です。すべてに手をつけていると時間が足りないため捨て科目を作りました。私は「物理」「地学」「世界史」「文学・芸術」を捨てました。比較的暗記量

の少ない、いわゆるコスパの良い科目を中心に捨っていくといいと思います。ダイレクトナビは赤シートで隠しながら勉強できるスタイルの参考書なのでスキマ時間に活用していました。

時事問題は毎年3問も出るので捨てるわけにはいかないのですが、直前の対策も取りにくいやっかいな科目です。速攻の時事を使って勉強しましたが、あまり本番の得点には結びつかなかったように感じました。やはり日ごろからニュースをチェックする習慣をつける必要があると思いました。

本番の1か月前からは過去問500を使って本番さながらの練習をしました。時間を計って毎日1年度分ずつ解きました。教養試験はとにかく時間との戦いです。知能分野は5分以内、知識分野は2-3分で解く必要があります。この期間でスピードに慣れておくと本番で気持ち的にも余裕が生まれるのでおすすめです。すべて解こうとせず、設定した目標点に到達することを目指しました。捨て科目は問題文すら読まなかったです(笑)。

専門試験

○使用した図書

森林・林業実務必携、森林・林業白書、林業技術ハンドブック、ネット記事

○対策

林学区分は受験者数が少ないので、世の中に参考書というものが出回っていません。林学の公務員講座を受講できる機会も限られていると思うので、基本的にほとんどの方が独学で勉強していました。図書はアマゾンや図書館を利用して集めました。以下の流れで対策を進めました。

- ①人事院から過去問5年分を取り寄せる。(届くまで1か月ほどかかるので注意)
- ②問題をコピーして切り抜き、ルーズリーフに貼る。
- ③余白に各選択肢について解説を書いていく。このときに参考箇所のページ数も記入しておくとなんか見返せて便利です。
- ④同ジャンルごとに問題を並び替えて、試験日まで繰り返し学習する。

実際の数値や長期的な傾向、ランキングなど、1つの資料をもとに様々な側面から問題を出してきます。繰り返し解く中で、気づいたことや付け足したい知識はその都度、解説欄に追加していきました。はじめは、「解説がないなんて勉強できない!」と嘆いていましたが、自分で解説を作ると、自分の苦手な部分をとことん調べながら覚えられるのでかえってそのほうがよかったと思いました。他にも、林業白書の文章がそのまま問題文に使用されているパターンがちらほらと見受けられたので、時間を見つけて白書を読むようにしていました。

専門記述試験

○使用した図書

森林・林業白書

○対策

一次試験を終えてから対策を始めました。専門試験と同じように過去問5年分を解きました。類似問題が多いので、比較的対策はしやすいと思います。白書の後ろにある「森林及び林業施策」はキーワードを含んだ簡潔な文章になっているので、記述対策に効果的です。本番では裏面の3割程度まで埋めました。時間はどうしてもギリギリになってしまうので、箇条書きにしたキーワードを直前まで暗記していき、本番で考える時間を減らすようにしました。

二次面接&官庁訪問

今年は日程がややこしかったので、流れをつかむために受験ジャーナルから出版されて

いる面接本を買いました。面接カードは就活を経験している友人などに添削してもらいました。恥ずかしいですが、周りの人に自分の性格や強みを聞くと、自己PR文は作成しやすいです。また、よく質問されることをネットや体験記から40問ほど探し、答えるポイントを抑えました。面接カードに書いた内容をかなり掘り下げた質問をされるので、ポイントを整理する準備は必要だと思いました。文を丸々暗記すると、本番で飛んだときや予期せぬ質問を投げかけられたときに対応できなくなります。私は用意したフレーズをすべて言い切るのではなく、ポイントを絞って対話の中に織り交ぜるという姿勢で本番に臨みました。官庁訪問の待合室はとても和やかな雰囲気でした。レンジャーの先輩を交えてテーブルを囲み、自分の番を待っていました。正直、会話を楽しむ余裕まではなかったですが、緊張は和らいたので本番でもスムーズに話すことができました。

内定までの過ごし方、心がけたこと

情報収集、スケジュールリング、努力。そしてレンジャーへの憧れ。これらは受験期を通して心掛けたことです。どれも欠かさないようにしていました。周りに林学区分での受験者がいなかったため、最新の情報には常に気を張っていました。すべてが終わって、あとは結果を待つだけという期間は本当に居ても立っても居られないです(笑)。あらかじめ、終わったらやりたいことリストを作っておくといいかもしれません。私は滅茶苦茶にバイトや遊びの予定を詰め込んで気を紛らわせていました。

アドバイス

受

験期は誰でも精神が不安になります。試験日が近づけば近づくほどです。私自身も院の中退を決めての受験だったので、不安になって毎日「院 中退 採用されない」というネガティブなワードをググった時期もありました……。そんなとき、一度立ち止まって、自分と向き合う時間を作ってみてください。一旦風呂に入る、趣味に没頭する、友達とご飯に行く等々。他事をしたり、人に話したりしていると意外と悩みの種は小さなことだったと気づくことが多いです。内定までの道は長いです。悩む日々もあるとは思いますが、ぜひレンジャーになった自分を想像しながらワクワクして過ごすことを心掛けてみてください。「誰に何言われてもレンジャーになるんだ!」。そう思えるようになるまで想像を膨らますと、面接の際、おのずとその熱意は伝わると思います。

そして、機会があればインターンシップに参加することをおすすめします。レンジャーの仕事を実際に見ることができ、先輩レンジャーさんたちに当時の勉強法などを教えていただける絶好の機会です。私自身も実際にインターンシップに行ったことがこの道に進む決め手になりました。最後になりましたが、この内定者の声が勉強の励みになってくれたら嬉しいです。陰ながら応援しています。

内定者 H の場合

プロフィール

【最終学歴】大学卒業見込み

【学年・性別・年齢】学部 4 年・男・22 歳

【参加した説明会・回数】なし

【併願先】なし

【インターンシップ】土佐清水自然保護官事務所でのインターンシップに参加

【試験区分】林学

【専攻科目】林学、生態学

志望動機

幼い頃から森・川・海などの自然が大好きだった私は、環境破壊の事実を知った時、自然を守らないといけないという強い使命感を抱くようになりました。どうしたら自然と人が共存できるのか、学生時代にたくさん考え、一つの結論に至りました。環境問題は、自然環境そのものに問題があるのではなく、人間の自然環境に対する接し方に問題があるということでした。失われていく自然を守るには、人が変わらなければ根本的には解決できないということを知りました。だから、自然環境と人と両方に関われる仕事をしたいと考えるようになりました。

環境省の土佐清水自然保護官事務所でのインターンシップをさせていただいた際に、自然環境と関わる時間と同じくらい地域の方々に関わる時間が多く、レンジャーの仕事は、自然とも人とも関われるまさに私がしたいと思っていたものだと感じ、志望するようになりました。また、インターンシップ先でお世話になったレンジャーの方は私が想像していた公務員の姿とはいい意味で違っており、このような方々と一緒に働いたら楽しそうと思ったことも志望動機の一つです。

勉強方法

勉強方法

2 月から本格的に勉強を始めました。最初にしたことは、内定者の声を読んで、何をどれくらい勉強して、どれくらい理解していれば合格できるのか考えました。そして、林業白書や過去問など必要なものを揃えて勉強を始めました。専門試験の勉強を中心にして、飽きたら基礎能力試験を解くというようなやり方で、自分のモチベーションを維持しながら勉強することを心がけました。

基礎能力試験は過去問を何度か解いて、自分が得点できる可能性の一番高そうな教科に絞って勉強しました。満点を取らなくていい試験なので、確実に点数の取れそうな科目から勉強して、安定して点数が取れるようになることが大切だと思います。

専門試験は初めに過去問を解いてみてほとんど得点できなかったため、林業白書と実務必携と大学の講義のノートを見ながら、一問一問、どこが間違っていてどこかが正しいのか丁寧に解いていきました。過去問は過去 4 年分くらい勉強しました。こちら満点を取らなくていい試験なので、自分が得点できそうな（すでに知識があるとか）問題に絞って勉強したら良いと思います。ちなみに私は大学で森林政策や森林生態学などは学んだことがあり、知識があったのですが、砂防や河川については全く聞いたことがなかったので、こちらは勉強しませんでした。

面接試験は、公務員試験の面接対策の本を読んで面接カードを書きました。面接の練習は特に行いませんでした。

官庁訪問

私は官庁訪問初日に環境省に行くために、一次試験の合格発表の次の日のフライトですぐ東京に行きました。今年から二次試験を受験する前に官庁訪問できる制度に変わり、環境省は二次試験の前と後、両方の日程で官庁訪問が可能で、初日は一次試験の合格発表の二日後でした。なるべく初日に行った方がいいだろうなと思い（実際は初日に行く方がいいのかどうかはわかりませんが）、きつぎつのスケジュールでしたが東京まで行きまし

た。面接カードを飛行機の中で準備したのがいい思い出です。(笑)

面接は面接カードに添いつつ、面接官の方から色々質問が来て、それに答えていくという流れでした。自分をよく見せようというより、面接官の方を楽しませたいという心持ちで臨んだので、緊張もしましたがすごく楽しかったです。面接の待ち時間は、他の受験者の方々と話しながらリラックスして過ごしました。

アドバイス

私

は、「人生は一生自分一人を作ることだ」という言葉を大切にしています。この言葉は恩師に言われた言葉で、大学一年生になっても四年生になっても、社会人になっても、結婚して家庭を持っても一生、自分の目指すゴールに向かって自分を磨いて作っていくことの意義を私に教えてくれました。高校生にとって

大学入学がゴールではないように、大学生にとって就職がゴールでないように、どんな状況環境でも常にゴールを目指して進んでいく。環境省という職場はゴールに向かう一つの手段だと思うので、ゴールがはっきりしている人は自分の目指すゴールに向かって、まだゴールが定まらない人はゴールを探しながら、目の前の勉強や就活を精一杯頑張ってください！！

内定者 I の場合

プロフィール

【最終学歴】大学卒（H30卒）

【学年・性別・年齢】既卒・男・23歳

【参加した説明会・回数】各省庁合同説明会・3

【併願先】なし

【試験区分】林学

【専攻科目】自然地理学（植生地理学）

志望動機

幼い頃から自然が好きで、川で遊んだり、山にはそんなに行かなかったですが自然と遊ぶのが好きな子でした。高校で将来どんな職業に就きたいか考えた時に漠然と自然に関わる職業に就きたいと思いました。私は高校までろくに勉強せずに部活の野球や友達と遊んでいましたので、大学は文系で自然の勉強が出来る地理学に入り、自然の勉強をすればそのような職業に就けるのではないかと考えました。レンジャーになりたいと思ったのは、大学中に知り合いと登山をしていて、山形の月山に行ったときに、素晴らしい自然と地域の人が守ってきた神社やお寺、宿坊などがあり、自然と地域の文化が一体となっている感じ、この両方を守りたいと考えたことがきっかけです。レンジャーの仕事は、地方自治体、地元の人と一緒に地域を守ることでもあると思ったので、幅広く自然と地域を守る仕事ができるレンジャーになりたいと思いました。

勉強方法

勉強方法

大学2年の11月から、勉強を始め、一日中勉強する日々を過ごしました。大学の授業が終わってからや、卒論の勉強と並行して進めました。大学3年の4月からはバイトも辞めて、試験勉強に集中しました。

基礎能力試験

基礎能力試験は、現代文、英文、判断推理、数的処理を主に勉強しました。しかし、大学も文系の自分には判断推理、数的処理は結構難しく、大分勉強しましたが、最終的には現代文、英文、資料解釈、知識分野で点数をとろうと思い勉強しました。点数はほんとにギリギリだったので、判断推理、数的処理を捨てるという真似はしないほうがいいかもしれませんが、こういう一例もあったらと思っていただければと思います。各科目は新スーパー過去問ゼミを使って勉強しました。

専門試験

林学の過去問を取り寄せ、5年分をやりました。過去の内定者の声にあったように、ルーズリーフに問題を張り付け、答えを調べて書き込んでいくというやり方です。参考書には森林・林業実務必携、林学白書、ネットを使いました。過去問5年分を解いたら、最後にノートに問題を張り付け、答えを書き写すし、暗記するという方法をとりました。ものすごい古典的な方法ですが、答えを全部暗記すればいいと思っていたので、試験日の午前3時頃までノートを暗記していました。

専門記述試験

過去問を1~2回解いただけでとくに対策はしませんでした。林業白書を読んでいて、林学の過去問を解いていけば知識はつくので、なんとかなると思っていました。

二次面接&官庁訪問

二次面接と官庁訪問両方で質問の回答集を作りました。ただ、各記入欄のそこから聞かれるであろう質問の回答を2~3つ用意しただけです。両方の面接で意識したのは、正直に答えようということです。質問の回答が決している内容でなくても自分がその時感じたありのままの気持ちを正直に話せばいいと思います。私も学部4年の時には二次面接で落

ちてしまいました。今思えば、その時はよくみせようとか自分にはできる人だとかみせようとしていたと思います。また、面接は1~2回練習したほうがいいと思います。私もLECなどの有料の面接練習を利用しました。ビデオ面接などで自分の面接姿をみると、もごもごした話した方や姿勢などがわかりいいです。私もそれを自分でみてハキハキ喋り言い切ることを意識したほうがいいと思い、実践しました。

内定までの過ごし方、心がけたこと

実は私は学部4年には人事院の二次面接で落ちてしまい、社会人1年目で人事院の試験に受かり官庁訪問で落ち、社会人2年目で合格しました。なので上記の勉強方法は大学4年時の勉強方法ですが、社会人1年目も基本的に勉強方法は変わりませんでした。内定までは不安な気持ちがあり、最終面接の準備をしながら、仕事をしていました。

| アドバイス

私

は大学も筆記で入ってもなく、正直皆さんのように頭がいいわけでもないの
で、こんな自分が環境省に合格してしまっていていいのかと思いました。ただ、大
学でレンジャーになりたいと思い、最後まで絶対にあきらめず結果がどうあれ
最後までやり抜こうと決めていました。社会人の経験も活かしたと思います。ま
た、ここまでこれたのは家族の支えがあったからです。これからやっていける
か不安もありますが、幅広く自然と地域を守ることができるレンジャーの仕事を一生かけ
てやっていこうと思います。レンジャーになりたいと思っている方は様々なバックグラウ
ンドがあると思いますが、どんな人でも諦めなければなれると思います。ただ漠然と自然
の仕事がしたいという気持ちでもいいと思います。拙い文章でしたが、こんな一例もある
んだと思って、自分と似たような境遇の人は励みしていただければ幸いです。

内定者 J の場合

プロフィール

【最終学歴】大学卒業見込み 【学年・性別・年齢】学部4年・女性・22歳
【参加した説明会・回数】霞が関 OPEN ゼミ、一般職合同業務説明会
【併願先】国家公務員総合職、民間企業
【試験区分】林学 【専攻科目】環境科学

志望動機

生物の絶滅と生物多様性の損失を食い止め、未来を生きる人々に豊かな自然を残すことに貢献する。それが、私が現在の学部に進学した理由であり、就職活動を行う上で軸となった思いでした。

自然を相手にする仕事は幾つかありますが、その中で環境省を目指す一番のきっかけになったのは、NPO でのインターンでした。そこで私は、行政や地域住民、環境保護団体など、立場による意見の違いを目の当たりにしました。しかし自然環境の保全や適切な利用にはどの立場の人でも欠かすことはできません。多様な立場の人々を繋ぐ調整役となることで、豊かな自然と地域社会、そこに根付いた文化を未来に伝えていきたいと思い、環境省を志望しました。

勉強方法

勉強方法

本格的に公務員を志望することに決めたのが遅かったため、結果として試験直前に勉強を始める形になりました。試験の中で最も配点が高い多岐選択式の専門試験に重点を置き、基礎能力試験は基準点を下回らなければ良いくらいの気持ちで勉強していました。

基礎能力試験

前述の通りとにかく時間がなかったため、「国家一般職教養試験過去問 500」を使って問題の形式に慣れることに専念しました。特に苦手だった数的処理と判断処理は、いろいろなパターンに触れて傾向や解き方を知ることでも少しでも得点につなげることを目標にしました。他の項目については特に対策しませんでした。

専門試験

基礎能力試験と同様に過去問を中心に勉強しました。過去問は大学の就職課に保管してあるものをコピーして利用しました。本番と同じ制限時間を設け、一通り解いた後で「森林・林業実務必携」と「森林・林業白書」を使って各問の全ての選択肢を検討しました。林学は専門外だったため、1問の選択肢を全て調べるだけでかなり時間がかかりました。

参考書は、林学なら「森林・林業実務必携」と「森林・林業白書」で十分です。この2冊は電車での移動中や寝る前など、時間を見つけては読んでいました。特に「森林・林業白書」は写真やグラフが多く読みやすいため、息抜きがてら読むことも多かったです。ここで注意点として、「森林・林業白書」は必ず最新版を利用してください。データは年々推移しており、中にはその変化を問う問題もあります。また、最新版の「森林・林業白書」に掲載されたグラフや表がそのまま設問になることも珍しくありません。私の場合も、ほんの10分前に見えていた表がそのまま出題されていました。

二次面接&官庁訪問

面接は訪問者(面接)カードに沿って行われ、そこから深掘りされる形でした。そのため訪問者カードを作成し終わったら、その内容を頭に入れておくことはもちろん、そこから想定される質問とその答えを考えておくといいと思います。

また、面接の練習は相手を変えて繰り返し行うことをおすすめします。回数を重ねるうちに、自分の言いたいことがうまく伝わる言い方や相手に興味を持ってもらえる話し方がわかるようになります。私の場合は、並行して受けていた民間企業の採用面接を通して話し方のコツを掴みました。

| アドバイス

就

活は普段見ることができない企業や行政の中を見ることができる貴重な機会でもあります。早いうちから進路を絞るのではなく、ぜひ色々な場所に足を運んでください。社会で働く人生の先輩方のお話を聞いてみてください。きっとたくさんの発見があると思います。そして、数ある選択肢の中から、自分の軸ややりたいことに合う進路を選んでください。

また、これは就活に限ったことではありませんが、迷ったときや不安になったときは一人で考え込まず友達や家族に話してください。話すだけで気持ちが楽になりますし、思わぬ有益なアドバイスがもらえるかもしれません。普段の何気ない会話が面接にも生きてくる、と私は思います。

就活、特に公務員試験は長丁場です。焦らず、根詰め過ぎず、マイペースに頑張ってください。皆様が希望の進路に進めるよう、応援しています！

| 巻末資料

| 専門試験でよく使ったもの

林業白書（林野庁）
過去問（人事院）
森林・林業実務必携（朝倉書店）

| 基礎能力試験でよく使ったもの

過去問
速攻の時事

| おわりに

内定者の声をお読みいただきありがとうございます。この冊子には、今年度内定者の体験談が書かれています。皆様々な環境で、様々な思いを持ちながら環境省のレンジャーを目指してきました。受験者の皆様もこれを読んで、色々な人がいて、環境省のレンジャーを目指す道は1つじゃないんだなと思っていただければ幸いです。また、道は環境省のレンジャーだけではなく、民間企業や地方自治体など様々な職種があると思います。皆さんも色々と考え、経験した後に答えを出すといいと思います。悩んだときは、家族や友達、学校の先生など誰でもいいので相談すると気持ちが楽になります。自分が信じた道を最後まで諦めずにやり抜けば必ずと道は開けてくるのではないかと思います。今年度の内定者に共通していることは、皆諦めなかったことです。まだまだ未熟な私たちですが、これから自分の気持ちを大切に一步一步進んでいこうと思っています。環境省のレンジャーを目指す皆様といつかお仕事を一緒に出来る日を楽しみにしています！ありがとうございました！

令和元年12月
令和2年度環境省入省予定
一般職自然系職員内定者一同

※環境省について

環境省職員には総合職と一般職があり、それぞれ事務系、自然系、理工系にわかれています。この冊子は令和2年度環境省一般職自然系区分の内定者が作成しています。採用に関する情報に関しては下記 HP を参照ください。

- 環境省 HP <http://www.env.go.jp/>
- 環境省_採用・キャリア形成支援情報 HP <http://www.env.go.jp/guide/saiyo/index.html>